

---

# ANA VISION 2011

---

第61期 第3四半期のご報告

(2010年4月1日～ 2010年12月31日)

# 国際線定期便就航25周年の節目を飛躍の年に

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

第3四半期(累計)の業績は、堅調な航空需要に支えられ、世界的な景気後退の影響を受けた前年同期と比較し、大幅な増収増益となりました。しかしながら、長引く景気の不透明感や原油価格の高騰、為替の変動等もあり、依然として予断は禁物で、今後も環境変化に強い事業構造への変革に、スピード感を持って取り組んでいく所存です。

さて、この3月3日に当社は、国際線定期便就航25周年を迎えました。1986年の成田－グアム線就航以来「ANAらしいサービスとは何か」を追求し、試行錯誤を重ねながら国際線事業の展開を続け、3月には28都市60路線、週888便を運航するまでに事業規模を拡大してきました。創業以来の夢であった国際線定期便の就航に心を躍らせた当時の想いは、今も私どもの大切なDNAとして受け継がれています。この節目となる2011年に、ジャカルタ線(1月)、マニラ線(2月)、さらに初の中国内陸部への路線となる成都線(6月)を開設できますことは、役職員一同にとってこの上ない喜びであり、株主

の皆様のこれまでのご愛顧とご支援に深く感謝を申し上げます。

2011年度は、ユナイテッド航空、コンチネンタル航空とのジョイントベンチャーの開始や世界で初となるボーイング787型機の就航等、私どもANAグループにとって、さらなる飛躍の年であります。これからも、「世界のお客様にお喜びいただくために何ができるか」「日本のエアラインならではのおもてなしとは何か」を追求し、世界のお客様に夢と感動を与えるエアラインに成長してまいりたいと思います。

株主の皆様におかれましては、変わらぬご愛顧とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



2011年3月

代表取締役社長 伊東 信一郎

# 連結業績ハイライト

2010年4月1日～2010年12月31日

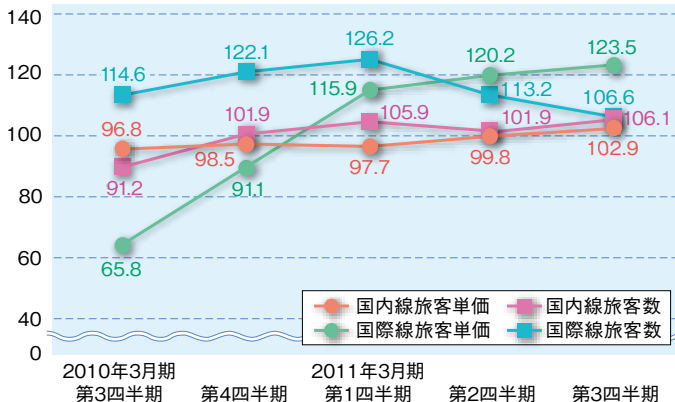
※金額は表示単位未満の端数を切り捨てています。

## 航空需要の堅調な回復と「ANAグループ2010-11年度経営戦略」の着実な実行で大幅な増収増益を達成

- 国内線、国際線ともに需要回復が堅調で、営業収入は10,391億円（前年同期比112.5%）になりました。
- 計画通り、着実にコスト構造改革を実行し、営業費用を9,614億円（前年同期比100.0%）に抑えた結果、営業利益は777億円、経常利益は583億円、四半期純利益は375億円と、前年同期と比べ大幅な増益となりました。

## 旅客数と単価の四半期推移（前年同期比）

（前年同期を100とした場合の数値）



## 経営成績

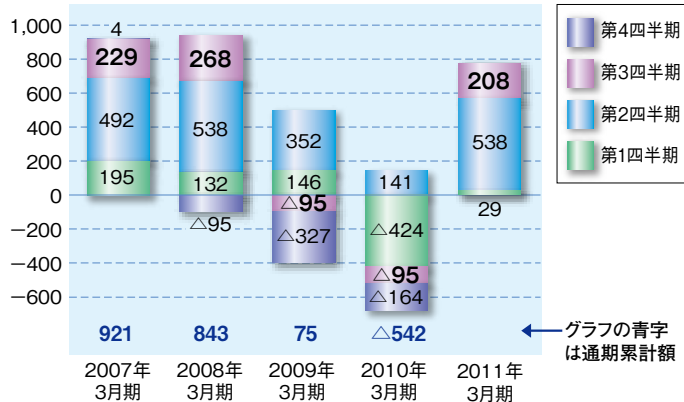
（単位：億円）

|                | 前第3四半期<br>累計 | 当第3四半期<br>累計 | 増減    | 前年同期比<br>(%) |
|----------------|--------------|--------------|-------|--------------|
| 営業収入           | 9,237        | 10,391       | 1,153 | 112.5        |
| 営業費用           | 9,615        | 9,614        | △ 1   | 100.0        |
| 営業利益又は損失(△)    | △ 378        | 777          | 1,155 | —            |
| 営業外損益          | △ 198        | △ 193        | 4     | —            |
| 経常利益又は損失(△)    | △ 576        | 583          | 1,159 | —            |
| 特別損益           | △ 3          | 26           | 29    | —            |
| 四半期純利益又は純損失(△) | △ 351        | 375          | 727   | —            |
| EBITDA*        | 464          | 1,653        | 1,189 | 356.3        |

※EBITDA＝営業利益＋減価償却費

## 四半期ごとの営業損益の推移

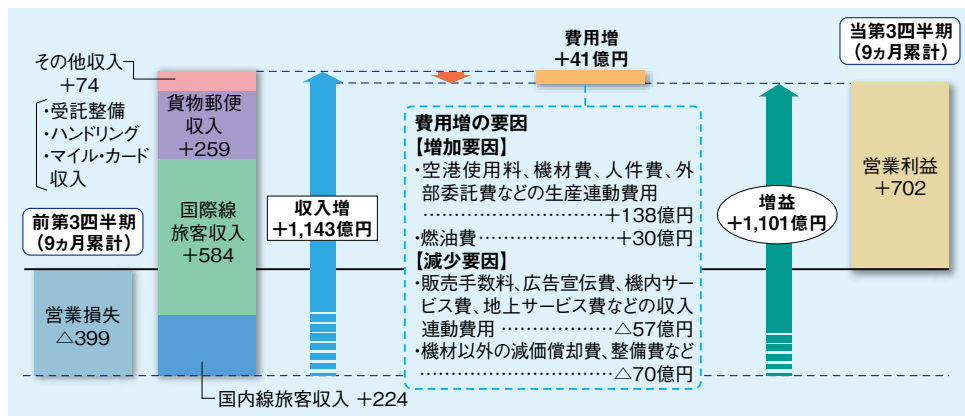
（単位：億円）



←グラフの青字は通期累計額

## 航空運送事業の営業利益増益の要因（前年同期との比較）

（単位：億円）



- 営業収入 1,143億円的大幅増加（国内線旅客）堅調な需要に支えられ、単価も上昇。（国際線旅客）ビジネス需要はリーマンショック前の水準に戻る。（貨物）需要の回復で単価も改善。

- 営業費用 41億円の増加に抑制コスト構造改革を着実に実行した結果、費用の増加を抑制。

- 営業利益 702億円を計上営業利益は1,101億円の改善。

ANAグループ連結財務諸表

2010年4月1日～2010年12月31日

連結貸借対照表

(単位 億円)

|               | 前期末<br>2010年<br>3月31日現在 | 当第3四半期末<br>2010年<br>12月31日現在 |                | 前期末<br>2010年<br>3月31日現在 | 当第3四半期末<br>2010年<br>12月31日現在 |
|---------------|-------------------------|------------------------------|----------------|-------------------------|------------------------------|
| <b>A 資産の部</b> |                         |                              | <b>B 負債の部</b>  |                         |                              |
| 流動資産          | 4,215                   | 5,642                        | 流動負債           | 4,726                   | 5,427                        |
| 固定資産          | 14,367                  | 14,604                       | 固定負債           | 9,063                   | 9,697                        |
| 繰延資産          | 8                       | 6                            | (有利子負債)        | (9,416)                 | (10,150)                     |
|               |                         |                              | <b>負債合計</b>    | 13,789                  | 15,125                       |
|               |                         |                              | <b>C 純資産の部</b> |                         |                              |
|               |                         |                              | 株主資本           | 4,855                   | 5,308                        |
|               |                         |                              | 評価・換算差額等       | △ 119                   | △ 246                        |
|               |                         |                              | 少数株主持分         | 65                      | 65                           |
|               |                         |                              | <b>純資産合計</b>   | 4,800                   | 5,127                        |
| <b>資産合計</b>   | 18,590                  | 20,253                       | <b>負債純資産合計</b> | 18,590                  | 20,253                       |

A 資産の部

流動資産は譲渡性預金などの手元資金が増加して前期末より1,427億円、固定資産は航空機関連の投資等により同236億円それぞれ増加したことなどから、資産は同1,662億円増加しました。

B 負債の部

社債の発行や新規借入により有利子負債が前期末より733億円増加したことなどから、負債は同1,335億円増加しました。

C 純資産の部

利益剰余金の増加(446億円)や繰延ヘッジ損失の増加(112億円)などの結果、純資産は前期末より326億円増加しました。少数株主持分を差し引いた自己資本も同額増加し5,062億円となり、自己資本比率は25.0%になりました。

D 特別損益

独禁法関連引当金戻入益167億円を特別利益に計上しました。一方、第2四半期に引き当てた和解金68億円や投資有価証券評価損35億円を特別損失に計上しました。

キャッシュ・フロー

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、営業収入の大幅な増加により1,824億円の収入となりました。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、航空機を中心とした投資を行い1,737億円の支出となりました。この結果、フリー・キャッシュ・フローは87億円の収入になりました。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済を進める一方、社債の発行や新規借入による資金調達を行った結果、665億円の収入となりました。
- 以上の結果、現金及び現金同等物の四半期末残高は2,231億円となりました。

※金額、数量は表示単位未満の端数を切り捨てています。  
※決算に関する資料は当社ホームページでもご覧になれます。

ANA 検索 → IR情報 → 決算・IR情報 → 決算短信

連結損益計算書

(単位 億円)

|                      | 前第3四半期<br>2009年 4月 1 日から<br>2009年12月31日まで | 当第3四半期<br>2010年 4月 1 日から<br>2010年12月31日まで |
|----------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 営業収入                 | 9,237                                     | 10,391                                    |
| 営業費用                 | 9,615                                     | 9,614                                     |
| 営業利益又は損失(△)          | △ 378                                     | 777                                       |
| 営業外収益                | 86                                        | 61                                        |
| 営業外費用                | 284                                       | 255                                       |
| 経常利益又は損失(△)          | △ 576                                     | 583                                       |
| D 特別利益               | 21                                        | 168                                       |
| D 特別損失               | 25                                        | 142                                       |
| 税金等調整前四半期純利益又は純損失(△) | △ 580                                     | 609                                       |
| 法人税等                 | △ 226                                     | 232                                       |
| 少数株主利益又は損失(△)        | △ 1                                       | 1                                         |
| 四半期純利益又は純損失(△)       | △ 351                                     | 375                                       |

セグメント別の営業収入

(単位 億円)

|           | 前第3四半期<br>2009年 4月 1 日から<br>2009年12月31日まで | 当第3四半期<br>2010年 4月 1 日から<br>2010年12月31日まで |
|-----------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 航空運送事業    | 8,163                                     | 9,307                                     |
| 旅行事業      | 1,269                                     | 1,248                                     |
| その他       | 1,033                                     | 1,044                                     |
| 営業収入      | 10,466                                    | 11,600                                    |
| セグメント間調整額 | △ 1,228                                   | △ 1,209                                   |
| 連結営業収入合計  | 9,237                                     | 10,391                                    |

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 億円)

|                  | 前第3四半期<br>2009年 4月 1 日から<br>2009年12月31日まで | 当第3四半期<br>2010年 4月 1 日から<br>2010年12月31日まで |
|------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 830                                       | 1,824                                     |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 3,040                                   | △ 1,737                                   |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 1,823                                     | 665                                       |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 1,046                                     | 2,231                                     |

セグメント情報

航空運送事業

● 国内線旅客

10月からは羽田空港D滑走路供用開始に伴い、徳島線の運航開始や一部路線の増便を実施しました。ビジネス需要、プレジャー需要とともに堅調に推移する中、「乗継特割」の新規路線設定、羽田第2ターミナル拡張等、需要喚起とサービス強化に努めた結果、旅客数は前年同期比104.5%、収入は同104.7%に増加しました。

● 国際線旅客

羽田空港から国際定期便9路線が就航し、首都圏発に加えて地方発の需要喚起効果もあり、ビジネス需要、プレジャー需要とも顕著な回復を見せました。尖閣諸島問題の影響で中国路線の観光需要が落ち込みましたが、旅客数は前年同期比114.5%に増加しました。さらに単価の改善も寄与して収入は同137.3%に増加しました。

● 貨物

国内貨物は、上半期における機材の小型化の影響などにより、輸送重量は前年同期を下回ったものの、単価の改善により収入は前年同期比100.8%と前年同期並の実績を確保しました。国際貨物は液晶・半導体関連部材の荷動きが活発なアジア域内路線、自動車部品を中心とした日本発北米路線の需要が好調で、輸送重量は前年同期比140.1%に、収入は同166.7%にそれぞれ増加しました。

● その他

旅客の搭乗受付や手荷物搭載などの地上支援業務の受託が増え、収入は前年同期比106.7%に増加しました。

旅行事業

海外旅行では羽田発チャーター便の強化や羽田発定期便のツアーが好調で、尖閣諸島問題や韓国への砲撃事件の影響が一部に見られたものの、売上高は前年同期を上回りました。一方、国内旅行では上半期の北海道、沖縄、九州などの主要方面は低迷しましたが、売上高は前年同期と同水準となりました。旅行事業全体の収入は前年同期比98.4%でしたが、コスト削減に努めた結果、営業利益は32億円(前年同期は営業損失2億円)と黒字になりました。

その他

空港店舗を中心とした顧客サービス事業分野や航空機事業、機械事業など商事・物販事業に回復が見られたことなどから、収入は前年同期比101.1%となり、営業利益は40億円(前年同期比183.0%)に増加しました。

航空運送事業収入

(単位 億円)

| (単位 億円) |             | 前第3四半期<br>2009年 4月 1 日から<br>2009年12月31日まで | 当第3四半期<br>2010年 4月 1 日から<br>2010年12月31日まで | 増減    |       |
|---------|-------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|-------|-------|
| 航空運送事業  | 国内線         | 旅 客 収 入                                   | 4,805                                     | 5,030 | 224   |
|         |             | 貨物・郵便収入                                   | 270                                       | 271   | 0     |
|         |             | 小 計                                       | 5,076                                     | 5,301 | 225   |
|         | 国際線         | 旅 客 収 入                                   | 1,565                                     | 2,150 | 584   |
|         |             | 貨物・郵便収入                                   | 415                                       | 674   | 258   |
|         |             | 小 計                                       | 1,980                                     | 2,824 | 843   |
|         | 航空事業収入合計    |                                           | 7,056                                     | 8,126 | 1,069 |
|         | そ の 他 の 収 入 |                                           | 1,106                                     | 1,180 | 74    |
|         | 合 計         |                                           | 8,163                                     | 9,307 | 1,143 |

(注)各収入はセグメント間の売上高を含んでおります。

輸 送 実 績

|                        |                     | 前第3四半期<br>2009年 4月 1日から<br>2009年12月31日まで | 当第3四半期<br>2010年 4月 1日から<br>2010年12月31日まで | 前年同期比<br>(%)<br>利用率はポイント |
|------------------------|---------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------|
| 国内線                    | 旅客数 (万人)            | 3,019                                    | 3,155                                    | 104.5                    |
|                        | 座席キロ※1 (億席キロ)       | 435                                      | 427                                      | 98.2                     |
|                        | 旅客キロ※2 (億人キロ)       | 267                                      | 279                                      | 104.4                    |
|                        | 利用率※3 (%)           | 61.4                                     | 65.3                                     | +3.9                     |
|                        | 有効貨物トンキロ※5 (百万トンキロ) | 1,447                                    | 1,406                                    | 97.2                     |
|                        | 貨物輸送重量 (千トン)        | 352                                      | 346                                      | 98.1                     |
|                        | 貨物トンキロ※6 (百万トンキロ)   | 348                                      | 343                                      | 98.6                     |
|                        | 郵便輸送重量 (千トン)        | 25                                       | 23                                       | 92.6                     |
| ※4<br>※8<br>※10<br>※11 | 郵便トンキロ (百万トンキロ)     | 25                                       | 24                                       | 94.2                     |
|                        | 貨物重量利用率※7 (%)       | 25.9                                     | 26.2                                     | +0.3                     |
|                        | 旅客数 (万人)            | 341                                      | 390                                      | 114.5                    |
|                        | 座席キロ※1 (億席キロ)       | 201                                      | 216                                      | 107.7                    |
| 国際線                    | 旅客キロ※2 (億人キロ)       | 150                                      | 168                                      | 112.4                    |
|                        | 利用率※3 (%)           | 74.6                                     | 77.8                                     | +3.3                     |
|                        | 有効貨物トンキロ※5 (百万トンキロ) | 2,009                                    | 2,262                                    | 112.6                    |
|                        | 貨物輸送重量 (千トン)        | 303                                      | 425                                      | 140.1                    |
|                        | 貨物トンキロ※6 (百万トンキロ)   | 1,267                                    | 1,560                                    | 123.1                    |
|                        | 郵便輸送重量 (千トン)        | 15                                       | 17                                       | 109.0                    |
|                        | 郵便トンキロ (百万トンキロ)     | 81                                       | 80                                       | 99.2                     |
|                        | 貨物重量利用率※7 (%)       | 67.1                                     | 72.5                                     | +5.4                     |
| ※9<br>※11              |                     |                                          |                                          |                          |

※1:座席キロ＝座席数×運航距離(キロメートル) ※2:旅客キロ＝旅客数×運航距離(キロメートル)  
※3:利用率＝旅客キロ÷座席キロ ※4:国内線旅客数には、IBEXエアラインズ、北海道国際航空、スカイネットアジア航空、スターフライヤー、オリエンタルエアブリッジとのコードシェア便の実績(当社販売分)を含む。  
※5:有効貨物トンキロ＝有効(搭載可能)貨物重量(トン)×運航距離(キロメートル)。なお、旅客便については、床下貨物室(ベリ-)の有効貨物重量に各区分距離を乗じた数値。床下貨物室の有効貨物重量には貨物、郵便のほか、搭乗旅客から預かる手荷物搭載の有効搭載重量を含む。 ※6:貨物トンキロ＝貨物輸送重量×運航距離(キロメートル) ※7:貨物重量利用率＝(貨物トンキロ÷郵便トンキロ)÷有効貨物トンキロ  
※8:国内線貨物および国内線郵便の実績には、北海道国際航空、スカイネットアジア航空、オリエンタルエアブリッジとのコードシェア便の実績(当社販売分)を含む。 ※9:国際線貨物および国際線郵便の実績には、コードシェア便の実績(当社販売分)、ブロック・スペース契約締結便実績および地上輸送の実績を含む。 ※10:国内線深夜貨物定期便の実績を含む。 ※11:国内線、国際線ともに不定期チャーター便の実績を除く。



# 運航の安全を守る電子装備システム



「安全は経営の基盤であり、社会への責務である」。このANAグループ安全理念で掲げているように、安全運航は、航空会社にとって最も優先しなければならない責務であることは言うまでもありません。今回は運航の安全をより確実なものとするために航空機に装備している、主な電子装備システムをご紹介します。

## 高度な電子装備システムを搭載

運航乗務員（パイロット）のヒューマンエラーを防止するために、ANAグループでは、さまざまな訓練を行っています。しかし、

万一ヒューマンエラーが発生しても事故やトラブルを未然に防止できるように、運航の安全を守るために進化を続ける高度な電子装備システムを航空機に順次装備してきました。

電子装備システムの進化と装備の状況

| 電子装備システム                                    | 機 能                                              | 1980 | 1985 | 1990 | 1995 | 2000 | 2005 | 2011<br>現在 |
|---------------------------------------------|--------------------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------------|
| 対地接近警報装置<br>GPWS                            | 地表面への衝突防止                                        |      |      |      |      |      |      |            |
| ウインド・シア警報装置<br>WINDSHEAR ALERT              | 風向の急激な変化を検知し、回避操作を指示                             |      |      |      |      |      |      |            |
| 空中衝突防止装置<br>TCAS                            | 航空機との衝突の危険性を検知し、回避操作を指示                          |      |      |      |      |      |      |            |
| 次世代航空航法システム<br>FANS                         | GPSによる高精度の自機位置把握、衛星経由で管制システムとデータ送受信、データ通信で管制官と交信 |      |      |      |      |      |      |            |
| 強化型対地接近警報装置<br>EGPWS                        | 地形データベースを用いて、急峻な地形などへの衝突防止                       |      |      |      |      |      |      |            |
| ウインド・シア予測警報装置<br>Predictive WINDSHEAR ALERT | 風向や風速の急激な変化を予測し、回避操作を指示                          |      |      |      |      |      |      |            |
| ヘッドアップディスプレイ<br>HUD                         | 外部監視を行いながら、視線を動かさずに離着陸に必要なデータを確認                 |      |      |      |      |      |      |            |
| 自動位置情報伝送・監視装置<br>ADS-B                      | GPSを使って入手した高精度の自機位置情報を高頻度で管制システムや近くの航空機に送信       |      |      |      |      |      |      |            |

■ 順次装備 ■ 全機装備完了 年

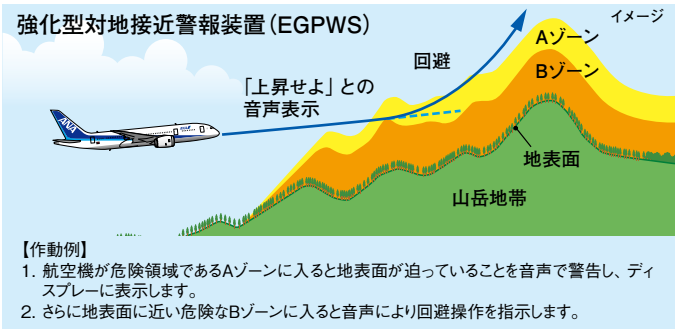
## 地表面への衝突防止のための対地接近警報装置

まず開発されたのが、パイロットが気がつかないまま地表面に衝突するのを防止するための**対地接近警報装置（GPWS）**<sup>注1</sup>です。航空機が地表面に不用意に接近している場合、電波高度計などの情報から直ちにこれを検知して、音声でパイロットに警告し、パイロットは速やかにエンジンの推力を上げ機首上げ操作を行い、地表面への衝突を回避します。1975年に米国で民間の大型機に装備が義務付けられて以降、日本でも同様に義務化され、ANAグループでも1980年までに大半の機材に装備を完了しました。

GPWSの装備により地表面への衝突事故は世界的に急速に減少しましたが、それでも発生する急峻な地形などへの衝突事故に対応するために、**強化型対地接近警報装置（EGPWS）**<sup>注2</sup>が開発されました。EGPWSには、山などの地形がデータベースとして内蔵されており、現在位置や進行方向などから前方の地形を表示し、山などに接近する前に音声とディスプレイで警告を行い、パイロットに回避操作を促します。ANAグループは1998年に装備を開始。2003年には全機に装備を完了しています。

注1：GPWS：Ground Proximity Warning System

注2：EGPWS：Enhanced Ground Proximity Warning System

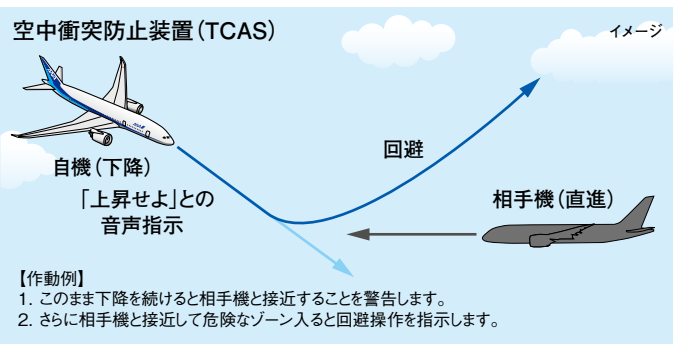


## 航空機同士の衝突を防止する空中衝突防止装置

**空中衝突防止装置（TCAS）**<sup>注3</sup>は、航空機自動応答装置（トランスポンダー＝航空管制に対応するためにすべての航空機に装備）が発する電気信号の情報を使って相手機の位

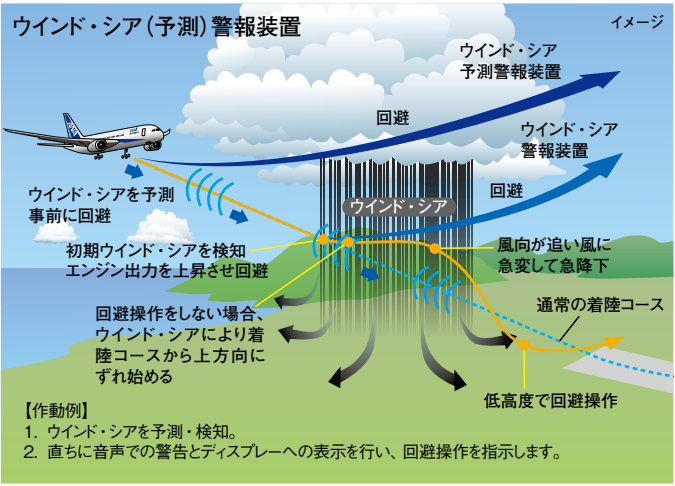
置や高度差をディスプレイに表示するとともに、接近率などを算出し、空中衝突の可能性が高くなると音声とディスプレイで警報を発し、パイロットに上下いずれかの方向への回避操作を指示します。ANAグループでは、1990年に世界で初めてボーイング747型機に装備を開始し、1998年に全機に装備を完了しました。

注3：TCAS：Traffic alert & Collision Avoidance System



## 急激な風向・風速変化による墜落防止のためのウインド・シア警報装置

航空機にとって離着陸時の不安定な機体の姿勢は安全運航を阻害する大きな危険要因となります。風向や風速の急激な変化はウインド・シアと呼ばれ、その危険を回避するための**ウインド・シア警報装置**は、飛行速度の変化などの情報を





使ってウインド・シアに入りつつあることを検知し、パイロットに音声とディスプレイで警告するとともに回避操作を指示する装置です。

さらに、進化した**ウインド・シア予測警報装置**では、レーダーで前方のウインド・シアを予知し、ウインド・シアに突入する以前に音声による警告とディスプレイによる警報を発し、パイロットに回避操作を促します。

ANAグループでは、従来型のウインド・シア警報装置の全機装備を1998年に完了し、ウインド・シア予測警報装置についても順次、装備機数を増やしています。

#### 通信品質向上のためにイリジウム衛星電話を独自に装備

近距離国際線に就航するボーイング737-700型機とエアバスA320型機には、長距離国際線機に装備している静止衛星を用いた衛星通信装置を搭載していないため、従来からの短波無線を利用していましたが、パイロットから通信品質を改善してほしいとの要望がありました。その改善策として採用したのが「イリジウム衛星電話装置」です。調査の結果、静止衛星を利用する衛星通信装置と通信品質も同等で、経済性も高いことがわかりました。ANAは日本の航空会社では初めて、イリジウム衛星電話を搭載し、通信品質の向上を図りました。



## GPSとデータ通信を活用する次世代航空航法システム

国際民間航空機関(ICA0)が中心となり、1990年代に具体化した**次世代航空航法システム(FANS)**<sup>注4</sup>では、それまでレーダーでの監視外だった洋上空域で全地球測位システム(GPS)を使用して、精度の高い自機の位置確認を行い、衛星経由で航空管制システムにデータを送信するとともに、通信品質が不安定な短波無線を使った管制官との交信を、テキストを用いたデータ通信で行えるようになりました。ANAグループでは1999年に、対象機全機にFANSの搭載を完了しました。

その後、ICA0ではFANSの名称をCNS/ATM<sup>注5</sup>(通信、航法、監視/航空交通管理)に改め、さらに増加が予想される航空交通量に対応するとともに、効率性と安全性をより一層向上させるための方向性を提示しています。

注4：FANS：Future Air Navigation System

注5：CNS/ATM：Communication, Navigation, Surveillance / Air Traffic Management

## 将来の航空交通システムに関する長期ビジョンへの対応

ICA0での動きを受けて、国土交通省は2025年を目標と

### ボーイング787型機に標準装備されるヘッドアップディスプレイ

ヘッドアップディスプレイ(HUD)<sup>注6</sup>は、前方のガラスに計器情報を投射する表示装置です。パイロットは計器監視のために外界から視線をそらすことが減少するため、頭を上げたままの姿勢で操縦が可能になり、安全性の向上が期待できます。ANAグループでは2005年より新規に導入するボーイング737NG型機に装備を開始し、ボーイング787型機には標準装備されています。

注6：HUD：Head Up Display



する「将来の航空交通システムに関する長期ビジョン(CARATS)」<sup>注7</sup>を発表し、数値目標として「安全性を5倍に向上する」ことを掲げています。

CARATSでは監視システムに、常に航空機の位置を正確に把握することを求めています。そのために、新しい監視システムの設置に加え、航空機に搭載される**自動位置情報伝送・監視装置(ADS-B)**<sup>注8</sup>の利用などが検討されています。

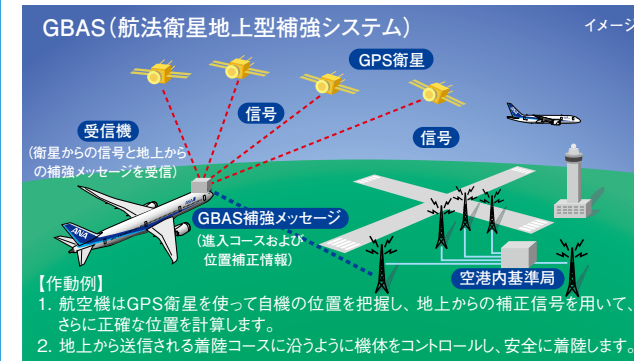
ADS-BはGPSを使って自機の位置を正確に把握し、その位置情報を管制システムや近くにいる航空機に高頻度で送信する装置です。ADS-Bを搭載すると、近くにいる航空機同士が自機の位置情報を送信して、お互いの位置をコックピットのディスプレイに表示できるので、パイロットの周辺監視が容易になるとともに、空中衝突防止装置(TCAS)との統合による、より一層の安全性向上が期待されます。

ANAグループではすでに2005年から新造機にADS-Bの装備を開始しており、今後、導入する全機材に装備する

### 着陸時の安全性を向上させるGBAS

GBAS<sup>注9</sup>はGPSを使った着陸誘導装置で、ボーイング787型機に標準装備されます。現在の計器着陸装置(ILS)では滑走路に直線での誘導しかできないのに対し、GBASでは滑走路への曲線での誘導も可能になると考えられています。また、現行のILSでは1つの地上設備につき1つの進入経路しか誘導できませんが、GBASでは1つの地上設備で複数の滑走路と経路に、より正確に誘導することが可能となります。

注9：GBAS：Ground Based Augmentation System

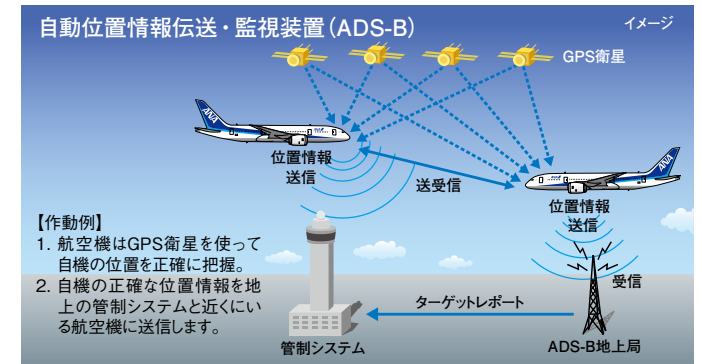


予定です。

安全性をさらに向上させるために、電子装備システムは日々進化しています。ANAグループでは、安全性の向上を目指して、より効果的な電子装備システムの採用に努めていくとともに、パイロットの訓練を充実させ運航の安全を守っていきます。

注7：CARATS：Collaborative Actions for Renovation of Air Traffic Systems

注8：ADS-B：Automatic Dependent Surveillance, Broadcast



### ～パイロットからのメッセージ

機能の熟知と定期的な訓練で瞬時に対応できる能力を磨いています

運航本部グループフライトオペレーション品質企画室  
技術部 運用技術チーム  
清水 耕次 機長



電子装備システムの進化はめざましく、17年間のパイロット生活の中で、安全性は格段に向上してきたと実感しています。それぞれの電子装備システムには、パイロットが通常行っている監視業務などをフォローしてくれる機能や、危険な事態に陥った場合には、警告して回避操作を指示する機能がありますので、人間の不完全さを補い、ヒューマンエラーの防止に貢献しています。私たちはこれらの電子装備システムの機能を熟知し、定期的に訓練を行い、さまざまな事態に遭遇して電子装備システムから警告が発せられた場合には、瞬時に対応できるように、自らの能力の維持向上に努めています。さらに電子装備システムが進化して、それらを使いこなすパイロットのマネジメント能力が向上していけば、その相乗効果で、運航の安全性はより一層向上していくものと確信しています。



2010年11月～2011年2月

11月

**11日 米国運輸省から独占禁止法適用除外認可**  
当社とユナイテッド航空、コンチネンタル航空は、太平洋間ネットワークに関する戦略的提携について米国運輸省より独占禁止法適用除外 (ATI) 認可を受けました (日本の国土交通省からは2010年10月22日認可)。2011年4月からの太平洋路線での共同事業「Pacific Joint Venture」開始に先駆け、1月27日には共同事業開始記念運賃「ANA/ユナイテッド/コンチネンタル パシフィックスペシャル」の販売を開始しました。



**11日 アビアンカ・タカ航空、コパ航空がスターアライアンス加盟方針を発表**  
2社の2012年の正式加盟後には、中央アメリカ、カリブ海、南アメリカ北西部の路線網が大幅に拡充予定です。



**29日 百貨店初、カード会員向け相互利用サービスの業務提携に合意**  
当社とエイチ・ツー・オー リテイリングは、AMCカードが顧客ポイントカードとして利用できるようにするなど、両社グループのカード会員向けサービスの拡充を図り、新たな顧客層の拡大やメイン顧客のロイヤルティ向上に努めていきます。

**ANA**  
ANAカード  
(クレジット機能付き)  
200万会員

**AMCカード**  
(非クレジット)  
1,800万会員

**阪急阪神百貨店**  
ベルソナカード  
(クレジット機能付き)  
70万会員

**エメラルド STACIAカード**  
(クレジット機能付き)  
40万会員

**博多阪急**  
エメラルドカード  
(クレジット機能付き)

**26日 アニュアルレポートが優秀賞受賞**  
日本企業が投資家向けに発行するアニュアルレポート (年次報告書) の中から、特に優れたものを表彰する「第13回日経アニュアルレポートアワード2010」で、優秀賞を受賞しました。



12月

詳細は、[ANA](#) [検索](#) → 「プレスリリース」または「ANAわかりやすいニュース配信」でもご覧になれます。

2011年1月

**7日 成田ージャカルタ線運航再開**  
(11～12ページ「ちょっぴり旅ぶらす」に関連記事掲載)  
成田・羽田ーシンガポール線 (一部) と成田ージャカルタ線※には、ビジネスクラスの新シート「ANA BUSINESS CRADLE」を搭載した新造機・ボーイング767-300ER型機が運航中。シート全体をしっかりとサポートし、ゆりかご (CRADLE) に身を委ねているような心地よくつろぎ感を追求しました。  
※運航する機材や座席仕様などは予告なく変更となる場合があります。



**11日 ANAのfacebook日本語公式ファンページをオープン**  
ソーシャルサイト「facebook」に日本語公式ファンページをオープンしました。すでに展開している英語公式ファンページとともに、グローバルマーケットでの双方向コミュニケーションの強化を目指します。



●公式ファンページ  
日本語 <http://www.facebook.com/ana.japan>  
英語 <http://www.facebook.com/flyworld.ana>

**31日 2011年3月期第3四半期の決算を発表**  
(詳細は2～4ページに掲載)

**10日 LCC新会社設立**  
2月1日、関西国際空港を拠点としたLCC (ローコストキャリア) に関する当社と香港のファーストイースタン・インベストメントグループ (代表、ヴィクター・チュー氏) との共同事業についての株主間協定が締結され、2月10日に新会社が設立されました。

**新会社の概要**  
会社名: A&F・Aviation株式会社  
本店所在地: 東京都港区東新橋1-5-2  
事業内容: 航空運送事業 (国内線・国際線)  
出資額: 当社1,005万円、First Eastern Aviation Holdings Limited (香港法人) 1,000万円、その他1,000万円。なお、就航前までに国内投資家からの出資を募り、最大で約150億円まで増資を予定  
代表者: 代表取締役CEO 井上慎一氏

2月

2月27日より成田ーマニラ線の運航開始

成田ーマニラ線の運航開始により、ANAの東南アジアネットワークは、成田ーバンコク、シンガポール、ホーチミンシティ、ジャカルタの4路線、羽田ーバンコク、シンガポールの2路線と合わせて、7路線に拡大!

|       |      |       |      |       |
|-------|------|-------|------|-------|
| NH949 | 成田発  | 17:55 | マニラ着 | 21:55 |
| NH950 | マニラ発 | 09:50 | 成田着  | 14:55 |

※運航開始日 成田発 2月27日、マニラ発 2月28日  
※使用機材 ボーイング767-300ER ※これらは関係当局の認可を前提としております。

2012年3月期 (2011年度) ANAグループ航空輸送事業計画を策定 (1月18日に発表)

■概要  
国際線: 6月に成田ー成都線を開設。中国・アジア路線を強化するほか、太平洋路線ではユナイテッド航空、コンチネンタル航空との共同事業を4月に開始します。(生産量 (座席キロ) は前期比117%を計画)

■路線便数計画 (以下の計画は関係当局の認可を前提としております。)

| 区分   | 期日        | 路線         | 便数・機種                                           |
|------|-----------|------------|-------------------------------------------------|
| 開設   | 6/19      | 成田ー成都      | 7往復/週、B737-700                                  |
| 再開   | 2011/3/27 | 中部ー上海 (浦東) | 7往復/週、B737-700※1                                |
| 増便   | 2011/3/27 | 成田ー瀋陽      | 3～7往復/週、B737-700・A320-200→7往復/週、B737-700※2      |
|      | 調整中       | 羽田ー北京      | 7往復/週、B777-200ER→14往復/週※3                       |
|      | 調整中       | 羽田ー上海 (虹橋) | 7往復/週、B777-200ER→14往復/週※3                       |
| 機種変更 | 2011/3/27 | 成田ー北京      | 14往復/週、A320-200→7往復/週、A320-200、7往復/週、B767-300ER |
|      | 5/1       | 成田ー台北 (桃園) | 7往復/週、A320-200→B767-300ER                       |

※1 2011年冬ダイヤの運航については今後調整  
※2 2010年10月31日～2011年1月31日のみA320-200が3往復/週運航  
2011年冬ダイヤの運航については今後調整  
※3 日中航空交渉の合意を前提

| 区分 | 期日        | 路線         | 便数・機種           |
|----|-----------|------------|-----------------|
| 増便 | 2011/3/27 | 成田ー上海 (浦東) | 4～6往復/週→通年6往復/週 |

| 新規導入                | 退 役                 |
|---------------------|---------------------|
| ボーイング767-300ER 4機   | ボーイング767-300 1機     |
| ボーイング737-800 2機     | エアバスA320-200 4機     |
| ボンバルディアDHC8-Q400 3機 | ボーイング737-500 2機     |
|                     | ボンバルディアDHC8-Q300 2機 |
| 計 9機                | 計 9機                |

(注) ボーイング787については調整中。同型機導入のスケジュールによっては、他機種も含めた導入・退役計画の見直しの可能性があります。

国内線: 羽田発着路線の拡充を進めます。また、利便性の向上に努めつつ、競合他社の動向、九州新幹線の全通に対応します。(生産量 (座席キロ) は前期比103%を計画)  
貨物: 貨物専用機による深夜帯の沖縄貨物ハブの安定運用と、昼間帯の中国・アジア路線を増強します。(貨物専用便の生産量 (有効トンキロ) は前期比103%を計画)

| 区分     | 期日          | 路線     | 便数・機種                              |
|--------|-------------|--------|------------------------------------|
|        | 2011/3/27※4 | 羽田ー伊丹  | 14往復/日→15往復/日                      |
|        |             | 羽田ー関西  | 4往復/日→5往復/日                        |
|        |             | 羽田ー神戸  | 2往復/日→3往復/日                        |
|        |             | 羽田ー千歳  | 15往復/日→16往復/日                      |
|        |             | 羽田ー沖縄  | 9往復/日→10往復/日                       |
|        |             | 羽田ー函館  | 2往復/日→3往復/日                        |
|        |             | 羽田ー庄内  | 4往復/日→4往復/日、5往復/日 (4月、5月、10月)      |
| 増便     | 4/1         | 伊丹ー熊本  | 4往復/日→5往復/日                        |
|        | 7/1         | 伊丹ー仙台  | 5往復/日→7往復/日                        |
|        |             | 伊丹ー新潟  | 4往復/日→5往復/日                        |
|        | 2011/3/27   | 関西ー千歳  | 4～5往復/日→6往復/日                      |
|        |             | 関西ー沖縄  | 4往復/日→5往復/日                        |
|        |             | 中部ー千歳  | 7～8往復/日→通年8往復/日                    |
|        |             | 中部ー秋田  | 1～2往復/日→通年2往復/日                    |
|        |             | 中部ー松山  | 2～3往復/日→通年3往復/日                    |
|        |             | 中部ー熊本  | 2往復/日→3往復/日                        |
|        |             | 福岡ー沖縄  | 8～9往復/日→通年9往復/日                    |
|        | 6/1         | 千歳ー女満別 | 2往復/日→3往復/日                        |
| 再開     | 2011/3/27   | 松山ー千歳  | 1往復/日※5                            |
|        | 6/1         | 関西ー女満別 | 1往復/日、6～9月運航→6～10月運航               |
| 運航期間延長 | 5/1         | 関西ー旭川  | 1往復/日、6～9月運航→5～10月運航               |
|        | 6/1         | 関西ー函館  | 1～2往復/日、6～9月のみ2往復/日→6～10月のみ2往復/日   |
| 運航期間短縮 | 7/15        | 福岡ー石垣  | 1往復/日、GW期間、7～10月のみ運航→7/15～8/31のみ運航 |
|        | 2011/3/27   | 千歳ー利尻  | 1往復/日、通年運航→9/30まで運航※6              |
| 減便     | 2011/3/27   | 伊丹ー松山  | 12往復/日→11往復/日                      |
|        | 7/1         | 中部ー仙台  | 5往復/日→4往復/日 IBEXとコードシェア予定※7        |
| 休止     | 7/1         | 中部ー大分  | 2往復/日→休止 IBEXとコードシェア予定※8           |
| 減便     | 6/1         | 千歳ー函館  | 5往復/日→3往復/日                        |

※4 日中航空交渉合意までの発着枠の暫定使用による増便が含まれているため、同交渉の状況に応じ、期中において変更となる場合あり ※5 2011年冬ダイヤの運航については今後調整  
※6 2012年度は6月から再開 (季節運航) 予定 ※7 コードシェア便を合わせた便数は6往復/日の予定 ※8 コードシェア便を合わせた便数は現行通りの予定



# インドネシアはサプライズのある魅惑の国



ジャカルタ市街  
写真提供：インドネシア共和国文化観光省



精悍なコモドラゴン  
写真提供：インドネシア共和国文化観光省



オランウータン  
写真提供：インドネシア共和国文化観光省

「スマトラの熱帯雨林遺産」や体長2m以上にもなる世界最大のトカゲ・コモドラゴンで有名な「コモ国立公園」など、世界の人々を魅了する7つのすばらしい世界遺産があり、これらを訪れないわけにはいきません！

## ジャカルタはASEANの拠点

首都ジャカルタは東南アジア有数のビジネス都市です。「世界の新たな成長センター」と呼ばれる東南アジア地域10カ国を束ねるASEAN(東南アジア諸国連合)の本部が置かれるなど、年々その存在感を増しています。今年はインドネシアが



ASEAN事務局

## 世界の人々を魅了する7つの世界遺産

インドネシアは赤道付近に17,000以上の島々が列なる世界最大の島嶼国です。人口は約2億3,800万人(世界第4位!)で約490の民族が暮らしており、国土面積は日本の約5倍、東西の長さは何と5,000km以上で、米国の東海岸から西海岸までの長さに匹敵します。

スケールの大きいこの国の魅力は何と言っても世界遺産。世界有数の仏教遺跡である「ボロブドゥール寺院遺跡群」、オランウータンが生息する



ボロブドゥール寺院遺跡群



ASEAN議長国であることから各国の注目を集め、数多くの人々の往来が例年以上に期待されています。

## コタの旧市街で歴史散策はいかが

ジャカルタは、オランダ領東インド時代には「バタビア」と呼ばれ、当時の中心地であった北部のコタ地区には、今でも当時の面影を楽しめるスポットが点在しています。ファタヒラ広場前にある、かつてのバタビア市庁舎(17世紀頃の建築)は現在、ジャカルタ歴史博物館となっており、オランダ総督が利用した調度品や牢屋などが展示されています。その正面には19世紀の建物を改築した「Cafe Batavia」という、当地でも有名でお洒落なカフェ&レストランがあります。ここでは西洋料理だけでなく、インドネシア料理や中華料理も堪能できるほか、夜はライブ演奏も楽しめます！



ジャカルタ歴史博物館  
写真提供：インドネシア共和国文化観光省



Cafe Batavia

## 幻のコーヒー「コピ・ルアック」とは？

コピ・ルアックが幻のコーヒーと呼ばれる由縁はジャコウネコにあります。最も良質なコーヒーの実だけを食べるジャコウネコから未消化のまま排出されるコーヒー豆を洗浄して、焙煎してつくるコピ・ルアックは、希少性が高く、非常に高値で取引されています。精製方法を聞くと、「これって本当に大丈夫?」と思ってしまうのですが、とても口当たりがまろやかで、何とも言いえない豊かな香りが特徴です。



コピ・ルアック

南ジャカルタにある5つ星ホテル「HOTEL MULIA」1階のThe Cascade Loungeでは裏メニューですが1杯110,000

ルピア(約1,100円)で最高級のコピ・ルアックを楽しむことができます。ぜひ豊かな香りと風味をお試しください！



The Cascade Lounge 写真提供：HOTEL MULIA SENAYAN

## ジャカルタはエステ・スパの天国！

ジャカルタで過ごす休暇に、ゴルフとエステ・スパは欠かせません。特にエステ・スパは本当に多種多様でたくさんあり、リーズナブルなお値段で楽しめます。南ジャカルタには、90分の足マッサージと90分の全身マッサージを組み合わせ、175,000ルピア(約1,750円)というクリーン&リーズナブルな「Bali Heritage Reflexology & Spa」というお店があります。同じくバンコク発の高級自然派化粧品で有名な「HARNN&THANN」のスパもあり、90分300,000ルピア(約3,000円)で贅沢な時間を過ごせます。とにかく、ジャカルタでは訪れる人の気分と予算に合わせたエステ・スパが選び放題。旅の疲れを癒すのにはもってこいです。ぜひ一度、いかがでしょうか。

## 所変われば、誕生日も変わる!?

インドネシアでは誕生日のお祝いがとてもユニークです。日本では「お祝いされる」意識が強いですが、インドネシアでは、自分の誕生日には周りの人にご馳走を振る舞う慣わしがあります。幸せをお裾分けするという考えからでしょうか、思わず「なるほど!」と思ってしまう。しかし、私の職場にはスタッフが40名以上もいるため、誕生日にはかなり懐が寒くなります。

世界遺産だけでなく、さまざまなサプライズや新たな発見があるインドネシアのジャカルタへANA便の運航が再開しました。シートとサービスが一新された新造機でインドネシアへのご旅行をお楽しみください！



国際機関

「東アジア・ASEAN経済研究センター(ERIA)」派遣 上坪雄之

## 運航ダイヤ

|       | 成田        | ジャカルタ   |
|-------|-----------|---------|
| NH937 | 08:40     | → 14:25 |
| NH938 | 06:30(翌日) | ← 21:10 |

※毎日運航、スケジュール時刻は現地時間です。



## 株主優待制度変更のお知らせ ●2011年5月下旬発送分より変更いたします！

1,000株以上ご所有の株主の皆様が発行している「株主優待券」と「株主特別優待券」について、2011年度上期分(5月下旬発送、有効期間2011年6月1日～2012年5月31日)より、制度を変更いたします。主な変更点は以下の通りです。  
なお、昨年、株主の皆様へお送りしている2010年度の「株主優待券」「株主特別優待券」については、現行制度が適用されます。  
新制度において優待券発行基準(基準日、枚数等)に変更はありません。

### 主な変更点

- 「株主特別優待券」の有効期間を半年間から1年間に延長します！**  
「株主優待券」:6月1日～翌年5月31日(変更なし)、「株主特別優待券」:12月1日～翌年11月30日に延長。
- 優待券の「有効期間」を「購入可能期間」から「搭乗可能期間」に変更します！**  
ご予約日にかかわらず、ご搭乗日に有効な株主優待券をご利用いただくことになります。
- インターネット、ANA予約・案内センター等でのご購入が可能になります！**  
あわせて、**航空券お支払い期限(予約日を含め3日以内)を設定します！**

### 優待券の内容

※青字部分が変更箇所

|           | 株主優待券                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 株主特別優待券             |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| 発行基準日     | 3月31日(5月下旬発送)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 9月30日(11月下旬発送)      |
| 優待券の有効期間  | 6月1日～翌年5月31日(1年間)<br>優待券の有効期間内にご搭乗いただける期間となります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 12月1日～翌年11月30日(1年間) |
| 航空券のご購入   | 他の運賃と同様に、インターネット、ANA予約・案内センター(コンビニエンスストア・銀行振込などを含む)でのお支払いが可能になります。その他ANA市内・空港カウンター、空港設置の自動チェックイン・購入機(一部空港を除く)、ANA取扱旅行会社でも今まで通りご購入いただけます。(空港の自動チェックイン・購入機で購入する場合には、「航空券のご購入」ボタンからお進みください。)                                                                                                                                                                                                                                                          |                     |
| 航空券お支払い期限 | 他の運賃と同様に、航空券のお支払い期限を設定します。<br>■ご搭乗日の3日前までのご予約: ご予約日を含め3日以内<br>■ご搭乗日の2日前から当日のご予約: ご搭乗便出発時刻の20分前                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                     |
| 優待券の回収    | インターネット、ANA予約・案内センター(コンビニエンスストア・銀行振込などを含む)でご購入いただいた場合は、ご搭乗手続きの際、ANA空港カウンターまたは空港設置の自動チェックイン・購入機(一部空港を除く)にて優待券を回収させていただきます。<br>(※空港の自動チェックイン・購入機(一部空港を除く)で回収させていただく場合には、「ご搭乗手続き」ボタンからお進みください。また、ご搭乗手続きの際、優待券に加えて、認証コード(ANAマイレージクラブお客様番号・確認番号・航空券ご購入時に使用したクレジットカードのいずれか)も必要となります。)<br>ANA市内・空港カウンター、ANA取扱旅行会社でご購入いただく場合は、同時に優待券を回収させていただきます。なお、ANA取扱旅行会社では、インターネットなどでご購入された場合の優待券の回収のみのお手続きはできません。複数区間を同時にご予約・ご購入の場合、第1区間のご搭乗前に、全区間分の優待券を回収させていただきます。 |                     |
| 予約の変更     | 優待券の有効期間において同一区間での予約便の変更は可能です。優待券の有効期間を越えてご予約便を変更する場合は、当該優待券での株主優待割引運賃の適用はできません。また、航空券の名義・区間の変更はできません。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                     |
| 航空券の払い戻し  | 航空券の有効期間満了日の翌日から起算して10日以内に限り承ります。<br>〈優待券回収前〉インターネット、ANA予約・案内センター、ANA市内・空港カウンターでの払い戻しが可能です。<br>〈優待券回収後〉ANA市内・空港カウンター、航空券をご購入いただいた旅行会社での払い戻しが可能です。<br>優待券の有効期間内での払い戻しの場合は、未使用証明書を発行します。有効期間内であれば、そのまま再度ご利用いただけます。                                                                                                                                                                                                                                   |                     |
| 発行枚数      | 変更ありません。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                     |

### 株主優待制度の変更について



#### Q 制度変更の目的は？

A お客様からの航空券お支払い方法拡大についてのご要望にお応えし、他の運賃と同様にインターネット、ANA予約・案内センター(コンビニエンスストア、銀行振込などを含む)でのお支払いを可能にいたします。さらに、従来に増してお客様にご利用いただきやすくなるため、株主特別優待券の有効期間を6ヵ月から1年間に延長し、優待券の「有効期間」を「搭乗可能期間」とすることでわかりやすくします。

#### Q 航空券お支払い期限の設定の理由は？

A 従来は、優待券ご利用の場合、空港もしくは市内の当社カウンターやANA取扱旅行会社以外ではご購入いただけなかったため、搭乗便出発時刻の20分前までを購入期限としておりました。しかし、今般の制度変更により、インターネットでのご購入を可能とするなど、他の運賃と同様のお支払い方法をご提供し、

お客様の利便性を確保できるようになるため、お支払い期限に関しても、他の運賃と同様にご予約日を含め3日以内(ご搭乗2日前から当日のご予約の場合は、ご搭乗便出発時刻の20分前まで)とさせていただきます。

#### Q インターネットなどで購入すれば、「スキップサービス」※は利用できますか？

A ご搭乗当日、空港でお手持ちの優待券を回収させていただく必要があるため、基本的には「スキップサービス」はご利用いただけません。ただし、ANA市内・空港カウンター、ANA取扱旅行会社でご購入された場合には、同時に優待券を回収させていただくため、今まで通り「スキップサービス」をご利用いただけます。  
※予約・購入・座席指定をお済ませいただいたお客様が搭乗手続きカウンターに立ち寄ることなく直接、出発保安検査場にお進みいただけるサービス

2011年6月1日～

## ANAの株主優待サービス

### 株主優待のご案内

| 発行基準日* | 発送日         | ①国内線ご搭乗優待                          | ②ANAグループご優待                      |
|--------|-------------|------------------------------------|----------------------------------|
| 3月31日  | 5月下旬<br>発送  | <b>株主優待券</b><br>有効期間6/1～翌年5/31     | ANAグループ優待券上期分<br>有効期間6/1～11/30   |
| 9月30日  | 11月下旬<br>発送 | <b>株主特別優待券</b><br>有効期間12/1～翌年11/30 | ANAグループ優待券下期分<br>有効期間12/1～翌年5/31 |

※株主優待発行基準日

■新規に株式をご購入される方は、発行基準日の4営業日前までに証券会社にてご購入手続きをお済ませください。  
次回(2011年5月発行分)は、**2011年3月28日(月)**が権利付最終日となります。  
■複数の証券会社をご利用の場合、届出住所と株主名が同一であれば、お一人の株主として所有株式を合算(名寄せ)した上でお取り扱いいたします。なお、届出住所または株主名が異なる場合は、別々の株主として登録されます。

#### ①国内線ご搭乗優待

・1,000株以上ご所有の株主の皆様へ、ANAの国内営業全路線でご利用いただける「**株主優待券**」と「**株主特別優待券**」を発行いたします。  
・優待券1枚で、ANA国内営業全路線片道1区間を、ご搭乗時片道(普通)運賃(小児の場合は小児運賃)の50%割引でご利用になれます。  
・「プレミアムクラス」を株主優待券・株主特別優待券でご利用の際は、一般席の片道(普通)運賃の50%割引に所定金額の追加が必要になります。

\*ご予約・空席・運賃等に関しては、国内線予約・案内センターまたは、ANAホームページ・携帯サイト(www.ana.co.jp)にてご照会ください。

#### ●株主優待券・株主特別優待券 発行枚数表 (1枚未満の端数は切り捨て)

| ご所有株式数           | 【発行基準日 3月31日】<br><b>株主優待券</b><br>(5月下旬発送)<br>6/1～翌年5/31まで有効 | 【発行基準日 9月30日】<br><b>株主特別優待券</b><br>(11月下旬発送)<br>12/1～翌年11/30まで有効 |
|------------------|-------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1,000株～1,999株    | 1枚                                                          | 1枚                                                               |
| 2,000株～2,999株    | 2枚                                                          | 2枚                                                               |
| 3,000株～3,999株    | 3枚                                                          | 3枚                                                               |
| 4,000株～9,999株    | 4枚+4,000株超過分<br>2,000株ごとに1枚                                 | 4枚+4,000株超過分<br>2,000株ごとに1枚                                      |
| 10,000株～999,999株 | 7枚+10,000株超過分<br>4,000株ごとに1枚                                | 7枚+10,000株超過分<br>4,000株ごとに1枚                                     |
| 1,000,000株～      | 254枚+1,000,000株超過分<br>8,000株ごとに1枚                           | 254枚+1,000,000株超過分<br>8,000株ごとに1枚                                |

#### ②ANAグループご優待

3月31日・9月30日に1,000株以上ご所有の株主様へ、「ANAグループ優待券」をお一人様1冊発行いたします。優待割引券は、冊子の後半にとじ込んでいます。

■IHGとANAの共同ブランドホテル・ANAホテルでのご優待

宿泊/レストラン・バーご飲食/ご婚礼ご飲食代/会議・一般ご宴会室料等

■国内・海外パッケージツアー商品のご優待

■空港内売店・免税店でのお買物ご優待

■株主様限定通信販売特別価格にてご提供

■「武蔵の杜カントリークラブ」ゴルフプレー料金のご優待

■「ANAダイヤモンドゴルフクラブ」ゴルフプレー料金のご優待

## 株主メモ

|          |                                                                                                                           |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ■ 事業年度   | 毎年4月1日から翌年3月31日                                                                                                           |
| ■ 定時株主総会 | 毎年4月1日から3カ月以内に開催                                                                                                          |
| ■ 基準日    | 定時株主総会権利行使確定日 毎年3月31日<br>期末配当金受領確定日 毎年3月31日 ※中間配当金制度は採用していません。<br>その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日<br>株主優待券割当確定日 毎年3月31日および9月30日 |
| ■ 単元株式数  | 1,000株                                                                                                                    |
| ■ 公告の方法  | 当社のホームページに掲載します。 <a href="#">ANA投資家情報</a> <a href="#">検索</a><br>ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載します。      |
| ■ 証券コード  | 9202                                                                                                                      |

### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社あてにお願いいたします。  
証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

|                             |                                                                               |
|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| ■ 株主名簿管理人および<br>特別口座の口座管理機関 | 大阪市中央区北浜四丁目5番33号<br>住友信託銀行株式会社                                                |
| ■ 株主名簿管理人<br>事務取扱場所         | 東京都中央区八重洲二丁目3番1号<br>住友信託銀行株式会社 証券代行部                                          |
| ■ 郵便物送付先                    | 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部                                      |
| ■ 電話照会先(通話料無料)              | <a href="tel:03-0120-176-417">03-0120-176-417</a> (平日 9:00 ~ 17:00 / 土・日・祝 休) |
| ■ ホームページ                    | <a href="#">住友信託銀行証券代行部</a> <a href="#">検索</a>                                |

## 株主インフォメーション

### ● 株主優待券・ANAグループ優待券のご送付について

2011年3月末に1,000株以上ご所有の株主様に5月下旬に発送予定です。

※株主優待制度が変更になります。詳細は本誌13～14ページをご確認願います。

### ● 定時株主総会招集ご通知のご送付について

2011年3月末に1,000株以上ご所有の株主様に5月末に発送予定です。

### ● ANA VISION(第66回定時株主総会決議ご通知・第61期報告書)のご送付について

2011年3月末の全株主様に6月下旬の定時株主総会終了後、発送予定です。

### 表紙写真紹介～空から見た世界遺産

ジャワ島中部のケドゥ盆地にある世界最大級の仏教寺院遺跡。100万個と言われる岩のブロックを積み重ねて造られた遺跡の頂上からの樹海や山々の絶景は必見です。1991年に世界文化遺産に登録されました。



ANAハローツアアで世界遺産を楽しむ。  
<http://www.ana.co.jp/inttour>

[ハローツアア](#) [検索](#)

全日本空輸株式会社 ホームページ <http://www.ana.co.jp/ir>

[ANA投資家情報](#)

[検索](#)

〒105-7133 東京都港区東新橋一丁目5番2号 汐留シティセンター

総務部 株式担当 電話03-6735-1001〔受付時間 平日 9:00～12:00/13:00～17:00/土・日・祝 休〕

本冊子は環境に配慮した  
用紙、インクを使用しています。

